

令和3年（2021）

■ 8月20日（金）（つづき）

## ② 第2区（南側の調査区）の調査

前報（8月6日）に続き、調査面第10層（後期中葉加曽利 B2～3 式）の調査を実施しました。

本層は、後期後葉安行 1 式の黒色土層（8 層）と、後期中葉加曽利 B1 式の貝層の間に堆積しています（写真1・2）。遺物は加曽利 B2～3 式を主体としていました（写真3）。



写真1 第10層の調査



写真2 第10層と上位の土層

令和3年（2021）



写真3 第10層の遺物出土状態

本層は、遺存状態のあまりよくない生骨を多量に含んでいますが、貝層に近い場所では、比較的良好な鹿角やアゴ骨が見られました（写真4）。



写真4 鹿の骨・角など

8月16日から貝層の調査を開始しました。遺物量は少ないですが、貝層中からは後期中葉の加曽利B1式が多く見られます。続報にご期待ください。